

Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo

Heroldo de HEL

N-ro 189 Julio 2020

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO 北海道エスペラント連盟

[Enhavo / 目次]

- ❖〈紹介〉 国際母語の日ポスター 横山裕之 P.2-4
- ❖北海道エスペラント連盟青年部設置の提案 第2次修正案
宮沢直人 P.5
- ❖Por gramatikaj demandoj-- 文法の疑問にこたえる --
HOŜIDA Acuŝi P.6-7
- ❖Danke ricevitaj (星田淳扱い--、読みたい方はご連絡ください)P.8-10
- ❖Historia studo pri japana politiko pri lingvoj
MIYAZAWA Naoto P.11-27
- ❖Subtena Centro por Fremda Loĝanto en Hokkajdo P.28
- ❖Protokolo de la 5-a Komitata Kunsido de HEL/Kasjaro
2020(2020年度 第5回委員会 議事録) P.29-30
- ❖新入会員 藤田冴子さん自己紹介 FUJITA Saeko P.31
- ❖編集後記 / Redaktanto parolas..... P.32



国際 言語の日

2020年
2月21日



“ウサオカモシルン

クルタット イダック

2020バニチュン
21ト

「国際言語の日」
は、2019年12月17日にユネスコ
総会が採択した決議に基づき、
2020年2月21日を「国際言語の日」として
制定された。この日は、世界の多様な
言語を尊重し、言語の多様性を
保護し、言語の学習を促進する
ための日である。

子供には自分の母語で教育を受ける権利があります。
ユネスコ と国際語 **Esperanto** の運動は、世界の言語的・文化的多様性
を尊重し支持しています。

国際言語の日に関する情報は、
ユネスコ言語政策センター (UNESCO Language Policy Centre) にお問い合わせください。
www.unesco.org/language-policy



「国際言語の日」
は、2019年12月17日にユネスコ
総会が採択した決議に基づき、
2020年2月21日を「国際言語の日」として
制定された。この日は、世界の多様な
言語を尊重し、言語の多様性を
保護し、言語の学習を促進する
ための日である。

ヘカッタラ ウタラ ヨッタ、コリタカ アニカムピスエイクニ権利アン。
Unesco (ユネスコ) ネヤ **Esperanto** (エスペラント)

イダクエイワッタラネヤ、ウサモシルンイダクヘカブリ
(文化) ヘネオリバクトララ、エヤムクニウモシラムオカウルウエネ。

国際言語の日に関する情報は、
ユネスコ言語政策センター (UNESCO Language Policy Centre) にお問い合わせください。
www.unesco.org/language-policy



国際母語の日ポスター（左掲）

横山裕之

<http://www.linguistic-rights.org/21-02-2020/>

にあります。2019 年に引きつづき 2020 年の国際母語の日のポスターができてますが、クレジットを入れたものを作ったので、それをご紹介します。（アイヌ語カナカナ版と日本語版）一般の人にもわかりやすくするために、オリジナルのポスターの上下に日本語のクレジットを入れています。

http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/kolofono-GEP_LINGV_2020.htm

にもこれを掲載しています。

（左：オリジナル / 右：クレジット付）



また、「エスペラントの日」の UEA 作成のポスターの日本語版も担当することになりました。「エスペラントの日」UEA ポスター日本語版を掲載予定

<http://www.linguistic-rights.org/esperanto-tago/>

ILEI 主催の VEKI の Lingva Festo で、私が作成した「アイヌ語の概要」の mp4 動画が配信することになりました。日本時間 7 月 27 日 23 時から始まります。20 分くらいです。

Programo por VEKI

La 53-a Virtuala Esperanto-Konferenco ILEI 2020

15-an de julio 2020

Dua sesio : Ĉefplado

16-a horo UTC + 2 : «Resumo de la ajnua lingvo» (indiĝena lingvo de Japanio) (prezento de JOKOJAMA Hirojuki)

大会招待文は以下のとおり

第 53 回 ILEI 大会は、UK 同様、今年は virtuala kongreso (VEKI) として 7 月 25 日～31 日の日程で開催されます。どなたでも参加できますので、この機会に ILEI 大会を体験してみたいかかでしょうか？

参加費は、7 月 10 日までは 5 ユーロ、11 日以降は 10 ユーロです。

申込みは: <https://veki.ilei.info/>

大会についての情報は、retejo de ILEI: www.ilei.info をご覧ください。

Okazos virtuala kongreso de ILEI (VEKI), 07-25/31.

Povas alighi chiuuj, kiuj interesighas pri la programeroj. Ghuu nekutiman kongreson kun kutimaj kongresaj programeroj de ILEI.

石川智恵子/ISIKAWA Tiekō

2020年6月20日

連盟委員組織部 宮沢直人

北海道エスپرانت連盟青年部設置の提案 第2次修正案

青年部準備会の即時結成

対象: 35歳以下のHEL会員7名(さらに札幌、旭川の青年エスپرانتチスト3名をHELに勧誘)

青年部入部資格: 当該年1月1日時点で35歳未満。

(ほぼ日本エスپرانت協会及び日本青年エスپرانت連絡会に準拠。)

任務: 青年部体制についての討論。

青年部メーリングリストの作成。希望するベテランエスپرانتチストも参加できるようにする。

テレ飲みの組織

HEL機関誌に青年部のページを確保し、青年の記事を掲載してもらう。(各自の勉強・仕事・主張など)

サハリン・韓国・フィリピン・ブラジルなどの青年エスپرانتチストとのメールなどでの連絡交流。

北海道内外での宣伝組織活動。(旭川)(サハリン:アレクセイ・モルチャノフ)(光州:ペルロ)(フィリピン:Alberto Stalin Garrido)(ブラジル:日諸 マルセロ優次)

ロンデタージョでの青年部合宿(北海道、全国)

日本エスپرانت協会の機関誌レヴオ・オリエンタや日本青年エスپرانت連絡会機関誌などへの青年部の活動報告。

北海道エスپرانت連盟総会議決必要事項

北海道エスپرانت連盟青年部の正式発足。第一回委員会での青年部長の選出。

青年会費と年齢の変更: 現行1500円と現行26歳未満を、

紙媒体機関誌青年会員1500円、ネット媒体機関誌青年会員1000円、海外在住青年会員(ネット媒体機関誌のみ)無料、当該年1月1日時点で35歳以下。

青年部予算: 青年部宣伝組織遠征費・合宿費補助、3万円。

Por gramatikaj demandoj

-- 文法の疑問にこたえる --

HOŝIDA Acuŝi

Permesu nun al mi prezenti mian komprenon pri gramatikaj demandoj prezentitaj de vi.

kiu には、「誰」という意味がある，これ自体は初学者にもむずかしくないだろう．格変化や複数形の変化があるが，他の名詞もまったく同じなのでこの単語自体の問題ではない．でだ．kiu には、「どの」という意味もあり，この場合別の名詞にくっつくことが多い，「どの」は、「誰」と結構離れている気がする．なぜなら，片方は明確に「人」であり，片方はそうでないから．

HOS-IDA komentas:

kiu の本来の意味は いろいろの 人、物の 前に立って「どれか」と聞く疑問詞。

何についての話か分かっていたら 後につく言葉は省略されるから

Kiu homo?(どの人? だれ?) は Kiu? で通用する。

辞書の訳語をそのまま 1対1で信じ込むと混乱するようですね。なぜこう使われているか、が

わかれば問題ないのに。

> tiu pomo の pomo が取れて tiu になると突然人になり，「その人」となる．

そんなことは ありえない。tiu pomo に続く文のなかに tiu が出たら当然その前に出ている tiu pomo のことと 理解される。

この点がよくわかる学習書(入門テキスト)は、今は絶版らしいが

JEI の 故・三宅史平さんが出した

Elementa Legolibro de ESPERANTO(エスペラント初級読本)でした。

ciutage「毎日」という副詞はどうだろう。これは ciu「あらゆる」と tage
「一日に、日中に」という単語からなっているのではなく、正確には、
ciu tago ないし ciun tagon という名詞句全体を副詞に転換していると考え
られないだろうか。

senlabora「無職の」という形容詞を考えてみたい。これは sen「～のない」と
labora「仕事の」の複
合語 と言える だろうか？そう いう考えもできなくないが、labora なんてい
う形容詞は、あんまり使われないもので はないだろうか？

HOS-IDA komentas:

> ciu「あらゆる」

ではない。ciu は「おのおの、めいめいの」で、

ciuj なら その「おのおの、めいめいの」ものすべてにかかる複数形だから
「すべて、あらゆる」の意味になる。だから

ciutage は「おのおの、めいめいの 日」、つまり「毎日」という副詞 になる。

senlabora は senlabor(ec)o, 「無職、失業」を形容詞化したもの。

Danke ricevitaj (星田淳扱い---、読みたい方はご連絡ください)

*Novaĵoj Tamtamas; n-ro 358/aprilo 2020, Internacia Gazetode Esperanto Jokohama (Hama-Rondo)/エスペラントよこはまのエスペラント文会報, A4X2 頁。巻頭記事は赤字で Pro la malsano KOVIM-19 (COVID-19), 新型コロナウイルスによる感染について。2a paĝo の humuraĵo はこんな(ウイルスを避けて閉じこもる)時どうするか、をしやべらせたなら…… の仮想発言集。

*NOVA VOJO : N-ro 572 majo 2020, EPA (エスペラント普及会), A5X26 頁のうち E.文は合計 5 頁。表紙裏の行事予定に 8 月の札幌市での EPA 夏季合宿が出ているが、別の複数行事について、「新型コロナウイルス感染拡大に伴う……行事の延期や中止……」の通知も。月刊カプリーツァ番外編は「第 47 代内閣総理大臣・芦田均と大本(対訳)/Okuŭaki T.」。

*Ponteto (Bulteno de Esperanto-Ligo en Re-giono

Kantoo) Majo 2020, N-ro 300 B5x20 頁のうち E.文 5 頁半は「論語世界語訳(連載中)/SASAKI T.」と「Helga, わが絵を語る/Helga Plo”tner, Germanujo」。トップ記事は「中止または延期に 第 69 回関東エスペラント大会」。最後のページには「八ヶ岳エスペラント館開館、無期延期」。どちらも新型コロナウイルスが原因。「(幻の)関東大会直前講座2 エスペラントで健康長寿を/大庭篤夫」。3 月のネパール旅行の記事は「4-a Speciala Ekskurso 2020 en Nepalo/仁木茂」と「血を流したり吸われたり/堀泰雄」。 「島崎敏一さんが残した絵葉書から(1)」は「日本エスペラント運動人名事典」にある pioniro について。

*La Movado: 関西エスペラント連盟 (KLEG) 発行、N-ro 832 junio 2020, :B5x16 頁のうち E.文 7 頁。巻頭記事は” Ĝemeliĝis Zelkovokaj Magnolio/ZHANG Changsheng” は高槻の友好都市常州(中国)からの手紙。

Kajero Libervola は新型コロナウィルスと疫病の歴史について。「WEB サイト拝見(4)」会は解散しても日々更新されている芦屋エスペラント会のサイト。“Epidemio iras tra la mondo/AIKAWA Setuko”もコロナウィルスについて。楽譜は「Pluvas longe(雨):北原白秋作詞、弘田龍太郎作曲、trad. SIMATANI Takesi)。

*受講生通信;第 190号、2020-06-01,沼津エスペラント会、A4X14 頁のうちエスペラント文 1 頁半。エスペラント行事の延期、中止が多い。

*sferilo2020junio 電子受信:米国サンフランシスコ周辺の Esp.組織(SFERO)の機関誌(6月号)、エスペラントと英語使用。6月6日の第549回月例会(電子参加)のの予告と5月2日の第548回月例会の報告。

*Mejlŝtono:仙台 E.会、2020 junio n-ro 277, B5X6 頁のうち E.文は 5 行。巻頭記事は「イベント中止」。「斉藤秀三郎のこと/後藤斉、

「中目覚についての電話/今泉久典」と、歴史的人物についての文。

*NOVA VOJO : N-ro 573 junio 2020, EPA(エスペラント普及会)、A5X26 頁のうち E.文は合計 9 頁。”IRUHA kaj Esperanto/奥脇俊臣”の IRUHA は Internacia Reto de Universala Homama Asocio の略称。裏表紙 2 頁は 3 言語(日、Esp.,英)使用の“Portre-toj de Oomoto/素顔の大本”について。

*La Movado:関西エスペラント連盟(KLEG)発行、N-ro833 julio 2020,:B5x16 頁のうち E.文 4 頁半。巻頭記事は“Finiĝis subteno al gelernantoj de Tooni …/Hori”(岩手県唐丹の被災小中校生への援助終了/堀)。「コロナ禍のニューヨークでもエスペラント活動を継続/Maki SANO)、「コロナの時代とザメンホフ/染川隆俊」、「例会などでのネット利用状況/編集部」、ほかにも運動報告にオンライン行事の記事が多い。楽譜は”Kanto de lulilo/ゆりかごのうた/trad. SIMA-TANI Takesi”。

*NOVA VOJO : N-ro 574
julio 2020, EPA(エスペラント普及会)、A5X26 頁のうち E.文は合計 9 頁。表紙裏に「8 月予定の EPA 夏季合宿(札幌)はコロナ感染拡大により中止」と通知。巻頭言は「進展する大本青年部のエス活動/中里洋」, ではコロナ禍によるオンライン行事に言及。“Inter-reta lecino/オンライン授業/堀孝三”もある。裏表紙では juna amiko の 5 月号に出た EPA 越年研修会の日韓子供クラスの写真。

*sferilo2020.710 電子受信:米
国サンフランシスコ周辺の Esp.組織
(SFERO) の機関誌(7 月号)。

エスペラントと英語使用。68-a
Landa Kongreso de
Esperanto-USA の予告。大会は
すべて Zoom によって行われる。

*Ponteto(Bulteno de
Esperanto-Ligo en Re-giono
Kantoo) Julio 2020, N-ro
301 B5x24 頁,のうち E.文 5 頁半
は「コロナウィルスから人類への手紙
(対訳)」と連載中の「論語世界語訳/
SASAKI Teruhiro」。「声を上げる
大切さ 安保闘争、今も胸に……」は
6 月 23 日の道新記事から。

“4-a speciala ekskurso,2020
en Nepalo/仁木 茂”、「唐丹支援
終了.皆さん、ありがとう/堀泰雄」。

Suba dokumento estas parto de mia esplorraporto kaj propono al la estraro de Japana Esperanto-Instituto en la 10-a de februaro, 2020. Oni ofte traktas ideon de erao multlingva kaj multkultura kiel naturan fenomenon. Sed laŭ mia opinio ĝi estas historia kategorio kaj havas materian bazon. Tutmondiĝo forprenas rajton por popola memdecideco tra lamondo. Tial popoloj en diversaj lokoj tra la mondo leviĝas por memdecideco progreseme aŭ reakcie. Monda laboristaro agadu por popola memdecideco kaj influu popolojn al sociaj ŝanĝoj progresemaj.

MIYAZAWA Naoto

Historia studo pri japana politiko pri lingvoj

1) La vojo al La Socio Multlingva kaj Multkultura en Japanio

1. Ekzisto de multaj lingvoj kaj multaj kulturoj, komerco kaj derabo en japana feŭdisma epoko

En japana feŭdisma epoko estis tiuj militoj, kiujn Japanio batalis kontraŭ aliaj landoj kaj pri kiuj oni ofte mencias ĝis nun. Mongola imperio invadis tutan Ĉinion kaj Koreion, poste la imperio atakis Japanion dufoje, sed ne sukcesis (1274, 1281). Kaj alie TOYOTOMI Hideyoshi kiu reunuigis tutan Japanion, invadis Koreion kaj batalis kontraŭ korea armeo kaj ĝia alianco ĉina armeo dufoje. Post la malvenko de japana armeo ili kuntrenis multajn koreajn metiistojn al Japanio. (1593, 1597). Sed krom tio, ĝenerale, en Japanio estis erao por alilanda komerco kaj ensorbo de alilanda kulturo,

kvankam estis diverasaj streĉoj historie.

Post la submeto de norda Orientnorda regiono de insulo Ĉefjapano, en moderneca feŭdisma epoko, erao de Edo, Ezochi (insulo Hokkajdo) estis regata de la feŭdo Matsumae. Bazo de Matsumae-ekonomio estis komerco kun etno Aino, ĉar en la teritorio de Matsumae malsame kun aliaj feŭdoj, oni ne povis kultivi rizon pro malvarma klimato. Pro la severa ekspluatado, etno Aino rezistmilitis trifoje kontraŭ japanoj (1457, 1669, 1789). En ĉiuokazo Ainoj malvenkis. feŭdo Matsumae intencas ĉefe ekspluati etnon Aino, ne havis politikon asimili etnon Aino.

Sur insularo Ryukyu, nuna Okinavo, en 1429 reĝlando Ryukyu unuigis la tutan insularon, kiu havis plej grande insularojn Amami, Okinavo kaj Sakishima. En 1609 la japana la plej suda feŭdo Satsuma invadis reĝlandon Ryukyu. Post tio reĝlando Ryukyu devas dependi de Ĉinio kaj Japanio ambaŭ. Pro severaj impostoj okinava popolo suferis. Feŭdo Satsuma gajnis grandegan profiton pro komerco kun Ĉinio kaj OrientoSuda Azio pere de reĝlando Ryukyu. Post revolucio Meizi, revolucia registaro trude farigis reĝlandon Ryukyu al feŭdo Ryukyu, poste al gubernio Okinavo. (1879 Procedo pri Ryukyu)

Oni ofte diras ke epoko de Edo estis fermita epoko por alilandoj. Fakte Japanio havis ĉefe 4 vojojn por alilandaj komercoj. Ĉe porto Ngasaki kun Ĉinio kaj Portgalio poste Nederlando, pere de feŭdo Tsushima kun Koreio, pere de feŭdo Matsumae kun etno Aino kaj aliaj etnoj en norda kontinento eĉ por ĉina materialo. Pere de Reĝlando Ryukyu feŭdo Satsuma komercis kun Ĉinio kaj OrientoSuda Azio. Feŭdo Satsuma eĉi sekrete komercis kaj riĉiĝis, poste tiujn grandegajn monojn kiun la feŭdo uzis por la revolucio Meizi.

En epoko Edo, la registaro ne havis komunan nacilingvon kiu unuigas diversajn diarektojn. Intelekturoj lernis sciojn de alilandoj per ĉina lingvo aŭ nederlanda lingvo.

2. Formado de moderna ŝtato, formado de nacia lingvo kaj politiko de aŝimiligo

Post la revolucio Meizi, la registaro Tokio detruis ekonomian bazon de etno Aino kaj forte antaŭenpuŝis politikon kampanigi kaj asimiligi etnon Aino. Pro severa malriĉiĝo de etno Aino, japana parlamento establis la Leĝon Protekti Antaŭan “Dozin-on” (1899-1987). “Dozin” estas diskriminacia vorto por praloĝanto en japana lingvo, signifas sobaĝa popolo. Laŭ la leĝo, ainanoj rajtas gajni terpecon por agrikulturo, kaj la registaro konstruis elementan lernejon en ĉiu aina vilaĝo. Sed fakte ainanoj ofte ricevis terpecon netaŭgan por agrikulturo, kaj en la elementaj lernejoj neniam instruistoj instruis ainan lingvon. La leĝo rezulte estis garnaĵo kampanigi kaj asimiligi etnon Aino. Estas studisto kiu insistas pri partikulutraj karakteroj de apriki la leĝon ke 1. Konfiski teron de ainnoj 2. Malpermesi fiŝadon kaj ĉasadon per kiu ainnoj gajnis monon 3. Malpermesi proprajn kutimon kaj kulturon de etno Aino 4. Devigi uzon de japana lingvo al ainnoj 5. Per ŝanĝigi nomon al la japanecan, registrigi ĉiun ainanon en civitaneco.

Post Ĉindinastia-Japana milito (1894-1895), moderniga ondo venis ankaŭ al Okinavo, estis la movado ŝanĝi okinavan kulturon kaj kutimon al japanecan. Dum 1935 -1945 en Okinavo oni ŝanĝis familian nomon aŭ prononcon de familia nomo al la japanecan. En 1940 registaro de gubernio Okinavo antaŭpuŝis la movadon por normiga japanlingvo. Pro devigo, malpermeso kaj puno en la movado, okinava popolo sentis ĝin kiel la movadon elimini dialekton okinavan. YANAGI Muneyoshi kiu estis membro de Japana PopolKultura Asocio kaj vizitis Okinavon tiam, kritikis dirante ke tio estas tro severa. Tiam loka registaro kaj instruistoj entuziasme enkondukis tiun dialektan karton kiu karto estas ligna plato kun ŝnuro

pendi ĉe la kolo de lernanto kiu parolis dialekton. Se lernanto kun la karto trovis la alian lernanton kiu parolas dialekton, la karto transiras al la alia lernanto. Sed male estis antipatio en kelkaj lernejoj ke lernantoj parolis dialekton okinavan pli ofte ol antaŭe. Dum severa milito invadi Okinavon de usona armeo, japanaj armeo mortopunis okinavanojn kiu parolis la dialekton, kiel spionojn.

La rezulto de Ĉindinastia-Japana milito (1884-1885), Ĉinio cedis Tajvanon al Japanio. Komence la kolonia registaro Tajvano severe regis Tajvanon per milita agado. Sed ekde 1919 dum ĉ. 20 jaroj la kolonia registaro antaŭpuŝis asimiligan politikon, bontenis kuneduki japanon kaj tajvanano, konduki japanlingvan edukon. En 1937 kiam Ĉinrespublika-Japana milito okazis, la kolonia registaro antaŭpuŝis la imperianiga politiko por planti japanan naciismon en Tajvano, ĉar Tajvano estis vidita grave kiel materiala bazo por milito de Japanio. La imperianiga movado estis japaniga movado al tajvanoj el 4 kampoj nome lingva movado, ŝanĝi familian kaj personan nomon, sistemigi memvoln soldatiĝon kaj pliordigi religian kaj socian kutimon. La politika fono de la imperianiga movado estis malsufiĉiĝo de popolo en japanio dum la milito kaj japana registaro devis fidi koloniajn popolojn. La japanlingva movado estis ĝisfunda uzado de japana lingvo, lernejoj por japanaj lingvoj loke metitaj, instigi tiujn japanligvajn familiojn en kiu familianoj parolas japanan lingvon kaj estis la fincelo de la movado. La procezo de la movado subpremis kaj malpermesis lingvojn Tajvano, Hakka kaj lingvojn de praloĝantoj en Tajvano.

En 1910 Japana registaro aligi Koreion post Ĉindinastia-Japana milito (1894-1895) kaj Rusa-Japana milito (1904-1905) por regado de Koreio kaj profitrajto de Manĉurio. La kolonia registaro Koreio havis edukon politikon laŭ kiu kvankam instruis korean lingvon kaj koreajn literojn, permesis kulturalan agadon per korea lingvo, la instrua lingvo estis la japana. En 1940

Projekto por Kunprospera Teritorio en Granda Orienta Azio konkretiĝis. En Koreio imperianiga politiko kaj politiko ŝanĝi familian nomon estis trude antaŭpuŝita. La nomo de korea nacio estas formita el tri elementoj, kaj tradicie edzo kaj edzino havas alian familian nomon. Politiko ŝanĝi familian nomon en koreio signifis enmeti koreojn en japanan paternalismon kaj imperiisman ordon de Tenno(japana imperiestro).

En 1931 okazis Manĉuria Incidento, japana armeo okupis tutan Manĉurion (OrientoNorda Ĉinio). Poste, iniciate de japana armeo, Manĉuria Ŝtato, pupa ŝtato de Japanio estis fondita (1932). La ideo ĉe la fondo de manĉuria ŝtato estis kunvivado de 5 nacioj nome, japano, ĉino, koreo, manĉuo kaj mongolo, sloganis justan regadon kaj feliĉan teritorion. Faktaj oficialaj lingvoj estis la normalita ĉina kaj la japana. Sed en la armeo kaj ŝtataj oficejoj japana lingvo estis la unua oficiala lingvo kaj en preskaŭ ĉiu eduka sistemo oni instruis per japana linvo. Alie estis loĝantoj ke patraj lingvoj estis la mongola aŭ la rusa. Ankaŭ troviĝis la faciligita japana kiel la kunviva lingvo.

En 1920, japana edukisto NITOBĖ Inazo estis elektita por vicsekretariestro de la Ligo de Nacioj. Li proponis proponon Nuligi Rasismen kaj ricevis pli multo da aprobo en la Ligo. Tamen laŭ la opinio de tiama prezidanto de la ligo, usona prezidanto Wilson, la propono malakceptis. En 1921, NITOBĖ aprobis proponon uzi Esperanton kiel laborlingvo en la Ligo. Sed Francio kontraŭis la proponon, fine la Ligo ne akceptis Esperanton. Opinioj kaj agadoj de NITOBĖ reflektis kontraŭsenton kontraŭ Eŭropo kaj Usono, kaj antaŭpuŝon de asimiligo al aziaj landoj ambaŭ. Ni devas taksi lian aferon per du vidpunktoj.

3. “Demokratiigo” post la mondmilito kaj la mito de ununacia ŝtato

Japanan politikon de asimiligo atingis doni voĉrajtojn pli kaj pli al loĝantoj de japanaj kolonioj. Fakte kolonidevenaj loĝantoj havis voĉrajtojn en ĉeflanda Japanio. En la 1-a de aprilo en 1945, laŭleĝe loĝantoj en Tajvano kaj Koreio gajnis voĉrajton por japana imperia parlamento, kvankam tio ne estis universala voĉdono.

Unuiĝintaj Nacioj kiu okupis Japanion post la 2-a Mondo-Milito, ŝanĝis japanan edukon sistemon ĉar imperianiga politiko fare de japana registaro antaŭpuŝis militŝtatismon. Imperiestra Ordono por Eduko estis nuligita el ĉiu lernejoj kaj edukejoj, kaj anstataŭ tio, Baza Eduka Leĝo estis metita. Tamen antaŭpuŝo de normaligita japana lingvo k.t.p. estis daŭrigitaj ĝis nun.

Tuj poste de fino de la mondmilito, koreoj en Japanio konstruis lernejon por sia nacia lingvo. En 1946 ĝi evoluis al la oficiala lernejo de la Ligo de Koreoj en Japanio. En 1948, laŭ la politiko de ĝenerala stabo (GHQ) de Unuiĝintaj Nacioj, japana Ministerio por Eduko ordonis fermi la koreajn lernejojn en Japanio. Pro tio koreoj en Japanio suferis malfacilan tempon. Koreaj kunaboj kun instruistoj tranoktis ĉe siaj lernejoj, alfrontis Uaonan Militan Policon kaj gardis siajn lernejojn. En 1952 la Paca Pakto de Sanfrancisko validiĝis, do koreoj kaj tajvanoj perdis japanan ŝtatanecon senkonsiderante sian volon. De 1960 ĝis 1975 pli kaj pli da gubernioj agnoskis koreaj lernejoj kiel neoficiala lernejo, kaj nun ĉiu korea lernejo en Japanio estas neoficiala lernejo.

Ekde 1945 Okinavo estis okupita de Usono. En 1960, Asocio en Gubernio Okinavo por Reveno al Patra Lando estis organizita, en 1972 Okinavo estis redonita al Japanio. Oni diris ke Laborista Sindikato de Instruisto en Okinavo estas la kolono de la movado. Sub la fono de la

movado, la sindikato aktive antaŭpuŝis eduki okinavajn geknabojn al memkonscio kiel japano kaj paroli la normalan japanan. Tempe dialekta karto estis reuzata en okinavaj lernejoj.

Politiko por asimiligo kaj ideo de ununacieca ŝtato estas malaj insistoj, sed estas sama ideo ke japana nacio kaj ŝtato estu speciala. En 1986, tiama ĉefministro NAKASONE Yasuhiro diris “En usono troviĝas multaj nigruloj, puerto-rikanoj kaj meksikanoj pro tio eduka nivelo de Usono estas tre malalta. Male ĉar Japanio estas ununacieca ŝtato, do japana eduko bone funkcias.” “Ĉar mi havas densajn brobojn kaj densan barbon, ŝajnas al mi ke en mia korpo fluas multe da aina sango.” Usona amaskomunikilo grande traktas la diron de japana ĉefministro kaj multaj organizoj en Usono protestis. Asocio de Utari en Hokkajdo (nuna Asocio de Aino en Hokkajdo) forte protestis. Multaj japanoj surpriziĝis pri la nomo de la leĝo pri Aino, “La Leĝo Protekti Antaŭan ‘Dozin-on(Sobaĝan Popolon)’ en Hokkajdo”. Fortiĝis popola opinio ke ni ŝanĝu la leĝon diskriminacian kaj asimiligan.

Laŭ la statistiko en 2018, en Japanio loĝas 3 cent kelkdek mil koreoj kaj aliĝante iliajn idojn koreidaj japanoj atingas kelkcent mil. Popolnombro de gubernio Okinavo estas 1.46 milionoj. Laŭ la Fako de Medio kaj Popolvivo de Hokkajdo, en 2006 popolnombro de etno Aino estas 24 mil (Estas sugesto ke popolnombro de Aino, kunkalkulante migrintajn al Tokio kaj en tuta Japanio estas ĉ. 100 mil.) En 2019, nove venintaj japanidaj fremduloj, fremdaj laboristoj, alilandaj studentoj kaj studistoj atingas 2.31 milionojn. Precipe sistemo de “teknika lernanto” por fremdulo estas granda problemo en Japanio, ĉar ili estas ekspluata per tre malalta sarajlo kaj ne havas sufiĉan rajton kiel laboristo.

2) Transiro de leĝoj pri Aino post la mondomilito kaj rajtoj de etno Aino

Gubernia Muzeo de Hokkajdo kiu malfermis en 2015, havas sian celon kontribui realigon de Kunvivada Socio Multkultura. La muzeo estis fondita kunigi 2 organojn. Antaŭ 2015 la muzeo estis Gubernia Muzeo Pionira de Hokkajdo ekde 1971 kaj Gubernia Stud-Centro pri Aino ekde 1994 kuniĝis en 2015. Angla nomo de iama Gubernia Muzeo Pionira de Hokkajdo estis “Hokkaido Colonial Museum”. “Hokkajda Kolonia Muzeo” estis pli esenca nomo de la muzeo kaj la historio de Hokkajdo.

La Leĝo Protekti Antaŭan “Dozin-on” daŭris longe eĉ post la mondomilito. Ĉar ankoraŭ restis iom da donata terpeco al ainanoj, inter ainanoj estis voĉoj daŭrigi la leĝon. En 1984, Asocio de Aino en Hokkajdo lanĉis proponon de La Leĝo pri Etno Aino. Tiam tiu leĝo kiu havis familieran nomon Nova Leĝo de Aino, estis vaste diskutita inter ainanoj kaj eĉ japanoj. Jam menciita diro de ĉefministro NAKASONE en 1986 vokis vastan antipation, do multaj japanoj havis intereson pri historio de etno Aino kaj tiama situacio de ainano. Tiu propono La Leĝo pri Etno Aino havis riĉan enhavon, inkluzive de postuloj politikaj, ekonomiaj kaj kulturaj.

En 1992 ainano KAYANO Shigeru kandidatiĝis por Senato per la 11-a kandidato sur la listo de Socialista Partio laŭ la sistemo de proporcia reprezentado. Tiam inter japanoj aperis la movado peti al Socilista Partio meti ainan kondidaton sur la unua rango sur la kandidata listo. En 1994 KAYANO elektiĝis kiel senatano pro la morto de senatano de plialta rango sur la listo. Li unuafoje en la historio parolis en japana parlamento ainlingve.

En 1997, Loka Juĝejo en Sapporo verdiktis por ainoj pri digo Nibutani

kiu estis konstruita ĉe rivero Saru en Hokkajdo. En la verdikto kvankam la digo kiu detruis ainan sanktejo, estis ne laŭleĝa, tamen ne estis akceptita peton de ainoj forpreni la digon. Sed la verdikto de la juĝejo kiel ŝtata organizo unuafoje agnoskis etnon Aino kiel praloĝanton. Fakte la ainoj malvenkis la juĝon, sed la ŝtato kaj gubernio Hokkajdo devis pagi juĝkoston.

En 1997 dum la mandato de KAYANO kiel senatano, japana parlamento decidis nuligi la Leĝon Protekti Antaŭan “Dozin-on” en Hokkajdo, kaj establi la Leĝon Akceli Ainan Kulturon (la Leĝo Akceli Ainan Kulturon kaj Disvastigi kaj Klarigi la Scion pri Ainaj Tradicioj k.t.p.). Plie japana parlamento aprobis aldonan rezolucion “Praloĝanteco de etno Aino estas historia fakto.”

Dum la procezo en la parlamento senatano KAYANO ofte aŭdis “Se vi volas specialan seĝon en la parlamento por etno Aino, nepre necesas ŝanĝo de japana konstituto.” (Tute ne, ni povas meti la sistemon esprimi politikan opinion de la etno sub la nuna japana konstituto.) “Se vi ne akceptas la Leĝon Akceli Ainan Kulturon, ni rezervos la Leĝon Protekti Antaŭan ‘Dozin-on.’” Senatano KAYANO Shigeru ricevis multajn premojn en kaj ekster parlamento. Fine li aprobis la novan leĝon, kvankam la leĝo havis tre limigitan enhavon. En 1998, li finis sian mandaton de senatano.

La Leĝo Akceli Ainan Kulturon neglektis ainajn postulojn por politiko nek ekonomio, spezi eksterordinalan ŝtatan buĝeton nur por kulturaj instalaĵoj kaj kulturaj agadoj de ainanoj. La fenomeno tiel nomata “speciala profito” aperis pro la ŝtata politiko laŭ la leĝo. Ainaj junuloj kiuj havas sperton de tradicio en sia hejmo, aŭ lernis ainan lingvon kaj kulturon en sia hejmo aŭ universitato estis laŭdegitaj en la kultura movado de Aino. (Naskiĝo de elito de aina kulturo)

En 2007, post 22 jaroj de la pretigo eĉ kun la aprobo de japana registaro “Deklaro de Unuiĝintaj Nacioj pri Praloĝantoj” estis aprobita. En

2008, sub la premo en kaj ekster Japanio, japanaj parlamento kaj senato ambaŭ decidis “la Rezorcio Agnoski Etnan Aino kiel Praloĝanton”. De tiam la movado de etno Aino antaŭen iras ree.

En 2019, nova leĝo kiu agnoskas etnon Aino kiel praloĝanton, estis aprobita. La Leĝo Akceli Ainan Kulturon aboliĝis, kaj la 3-a leĝo pri Aino “la Leĝo Antaŭpuŝi Rimedon Realigi Socion Estimi Dignon de Aina Popolo” (la Leĝo Antaŭpuŝi Rimedon por Aino) estis aprobita.

La Leĝo Antaŭpuŝi Rimedon por Aino unuafoje kiel japana leĝo rekognis etnon Aino kiel praloĝanton. Sed la leĝo neniam tuŝis rajtojn de praloĝanto kiun multaj ainanoj esperis. Laŭ la leĝo nur municipoj en Hokkajdo povas havi projektojn vigligi sian komunumon aŭ havi rimedon por turismo per aina kulturo. Tio malproksimigas etnon Aino el politika memdecido kaj ekonomia memstaro. Multaj ainaj grupoj postulas repristudon de la leĝo aŭ esprimas kontraŭopinion.

Laŭ mia opinio, ekzemple povas esti rimedoj por etno Aino, organizi leĝe oficialan ainan konsilantaron fare de ainanoj por japana parlamento. La konsilantaro povas raporti ainan situacion kaj konsili japanan politikon pri etno Aino. Reguli universalan voĉrajton de tuta ainano por la konsilantaro necesas. Japana registaro kolektu terenrenton de publika tero kaj tero de granda kompanio en Hokkajdo, per tiu financa fonto etno Aino fondos etnajn lernejojn de Aino kiun ainanoj longtempe revis (kompreneble oni instruos per la aina kaj la japana ambaŭ). Aina konsilantaro administros la fonduson por etnaj politiko, kulturo kaj ekonomiagado k.t.p. Estos multaj rimedoj realigeblaj.

3) Ideoformado de Kunvivada Socio Multlingva kaj Multkultura, kaj Tutmondiĝo

En 1989, tiamaj usona prezidanto George.H.W.Bush kaj sovetia sekretariestro M.Gorbachev deklaris finon de la malvarma milito. Poste monda ekonomio akre stirigis al tutmondiĝo. Tutmondiĝo cirkuligas popolon, materialon kaj kapitalon tra la mondo. Precipe gigantaj kapitaloj mondskalaj regas mondon trans landlimoj. Tio kondukis diferenca socion mondan, kaj forprenon de popola memdecideco. Diferenca socio tutmonda plimultigas rapide migrantajn laboristojn. Alie, praloĝantaj socioj kiuj jam estis damaĝitaj pro regado de koloniismo, alfrontas finan ekspluatadon de sia bazo de vivo kaj ekzisto nome, ekonomio, kulturo, tero k.t.p. fare de tutmondaj kapitaloj.

Por mildigi konflikton inter migrantaj laboristoj kaj tradicia socio, faciligi ekspluatadon de fundaj laboristoj, ĝistiam politiko de asimiligo tra la mondo ne sufiĉas. Materia bazo de ideo de Kunvivada Socio Multlingva kaj Multkultura estas ĉi tie. Kaj ekspluategi praloĝantojn estas ebleco okazigi mondan solidarecon kaj severan batalon de praloĝantoj mem por gardi memdecidecon. En 1994, Zapatista leviĝis. Kontraŭ reakcia meksika registaro kaj kontraŭ NAFTA (Nord-Amerika Libera Komerca Konsento) kiu estas Tutmondiĝa traktato, praloĝantoj en ŝtato de Chiapas en Suda Meksikio, ribelis per pafilo kaj ĝisnun ili gardas liberigan regionon. Necesas nova unuiga ideo de kulturo por kapitaloj kaj registaroj. Kune kun tiu unuiga ideo, ankaŭ necesas unuiga ideo por migrantaj laboristoj kaj ĉeftendenca socio, do ili iĝis ideo de "Kunvivada Socio Multlingva kaj Multkultura".

Tiu ideo ofte funkcias progreseman rolon en nia socio. En 1996, "La Manifesto de Prago" prezentia en La 81-a Universala Kongreso de Esperanto en Prago en Ĉeĥio klare estis efikita de la ideo de Kunvivada Socio Multlingva kaj Multkultura. Estas ne sufiĉa ke la Manifesto insistas ĉefe kiel Esperanto kaj esperanta movado konvenecas la novan socion kaj

ideon mondan. Esperantaj posteuloj devas pensi kontraŭ kiu ni batalu por nova socio kaj kiel ni ŝanĝu nian propran movadon por la ideo.

En 2007, “La Manifesto de Unuiĝintaj Nacioj pri Rajtoj de Praloĝantoj” aprobita de la ĝenerala asembleo de UN, kvankam ĝi ne subtenas armilan batalon de praloĝanto, plene listigis rajtojn de praloĝantoj bezonitaj de nuna situacio.

Kaj pri Okinavo en 2014, Komisiono Aboli Rasismon en UN en la 29-a de aŭgusto publikigis finan opinion kiu admonis japanan registaron al protekti rajtojn de okinavano kiel praloĝanto. Ankaŭ la komisio postulis respekti popolan opinion kaj admonis la registaron al pli da diskuto kun reprezentantoj de okinavanoj pri akceli kaj protekti iliajn rajtojn. La komisio ankaŭ rekomendis preni kontraŭrimedojn ekzemple enhavigi okinavaĵajn lingvon, historion kaj kulturon en la lernolibron por protekti okinavanojn. Kontraŭ la finan opinion de la komisio, japana registaro diris en la parlamento ke la registaro volas allabori al la komisio faktan retiron aŭ modifon.

En Okinavo ne troviĝas komunan okinavan lingvon, laŭ insuloj kaj vilaĝoj estas proprajn okinavaĵajn lingvojn. La lingvo ĉe Shuri en kiu reĝa palaco troviĝis, ŝajnas esti la plej aŭtoritata. Oni diras ke junaj okinavanoj nunaj ne bone komprenas tradician okinavan lingvon, ilia lingvo ŝajnas esti okinavema japanlingvo kiu iĝas komuna lingvo kiel kreola lingvo. Lastatempe radioelsendo per okinavema japanlingvo estas populara inter okinavaĵajn junulojn en Okinavo.

Kvankam la ideo de Kunvivada Socio Multlingva kaj Multkultura esence havanta progresemon, tamen ĝi estas ankaŭ kompletigaĵo de tutmondiĝo, eĉ ofte iĝis la folio de figarbo de tutmondiĝo. En 2008, korea esperantisto maldekstra salutis en la malgranda kunveno en Sapporo, Japanio, kontraŭ la pinta konferenco ĉe la bordo de lago Toya en Hokkajdo. En 2012, li vizitis Japanion kaj intencis partopreni en la Japana Esperanto-Kongreso.

Kaj Japana Oficejo por Enmigrintoj rifuzis lian viziton al Japanio. Tiam Japana Esperantoo-Instituto ne protestis kontraŭ la Japana Oficejo por Enmigrantoj kaj eĉ la Loka Kongresa Komitato ne permesis al koreaj esperantistoj klarigi la aferon en la ĝeneralan kunvenon de la kongreso. (Poste respondeculoj de la LKK pardonpetis al la koreaj samideanoj pri tio.)

En Administra Centro (enmetejo) por Enmigrantoj en Omura respondeca de la Japana Ministerio pri Justico, en 2019, niĝera enmetulo mortis pro malsatstrikoprotesti maljustan traktadon de japana registaro. Nur dum jaro 2019, ĉ. 100 enmetuloj malsatstrikis en la centro. Ĉar en Japanio konfirmo de rifuzintoj estas tro mallarĝa kaj plej parto de rifuzintoj ne povas gajni permeson vivi en Japanio. Ankaŭ ili ne povas reveni al hejma lando pro la kialoj de politiko k.t.p. Do multe da ili tro longe estas enmetitaj en la centro.

Dum JICA (Japana Internacia Koopera Agento respondeca de Japana Ministerio pri Fremda Afero) propagandas Kunvivadan Socion Multlingva kaj Multkultura, japana registaro forprenas politikan esprimrajton de alilandanoj, kaj distrenas rajtojn kunvivadi familianon el eksterlandanoj.

4) Problemoj establi “la Leĝo Akceli Rimedojn por Aino”

Rajtoj de praloĝantoj laŭ internacia agnosko estas subaj. (Oni kritikis ke difino de praloĝanto estas ne krala.)

Estas rajto memdecidi, rajto rifuzi trudan asimiligon, rajto postuli redoni aŭ kompensigi teron kaj naturaj provizaĵoj, rajto vivi laŭ siaj kutimoj de kulturo kaj religio, rajto instrui kaj lerni per propra lingvo, rajto utiligi teron kaj provizaĵon tradicie kunigitajn k.t.p.

Precipe vidante pri rajto de memdecido, en 2008 metita “La Interparola kunsido de kleruloj, kiamaniere politiko pri Aino devas esti” havis 8 membrojn prezidite de honora profesoro de ŝtata universitato Kioto, kaj nur unu membro estis ainano. Laŭ la decido de la kunsido, japana registaro metis La Kunvenon Antaŭpuŝi politikon Ainan prezidita de kabineta sekretariestro SUGA Yoshihide, havis nur 5 ainanoj el 14 tutaj membroj. En 2019 kiam “la Leĝo Akceli Rimedon Realigi Socion Estimi dignon de Aina Popolo” (la Leĝo Akceli Rimedon por Aino) estis decidita kaj validita, tiam troviĝis neniu ainano en la kabineto de japana registaro nek en la japanaj parlamentoj.

Kaj etno Aino ne havas decidrajton utiligi teron, preni sobaĝajn bestojn kaj plantojn, devas peti al municipoj por tio. Multaj ainaj grupoj kritikis tiun punkton de la leĝo. Aina Asocio en Uraĥoro kaptis salmonojn kiujn la leĝo aŭ la regulo de gubernio malpermesas kapti, insistas ke la kapti salmonon estas propran rajton de praloĝanto, kaj akuzas ilian rajton al la ŝtato kaj la gubernio Hokkajdo.

De septembro en 2007 aprobita Deklaracio sur la Rajtoj de Praloĝanta Popolo de UN (antaŭparolo kaj 46 artikoloj) estis ratifita ankaŭ japana registaro. Laŭ la 26-a artikolo de la deklario, estas klare skribitaj rajto ke praloĝanto povas kolektive utiligi kaj administri teron kaj provizaĵon.

Tiu estas nomata ĝenerale “Rajtoj de Praloĝantoj”. Fakte sub la sistemo de La Leĝo Akceli Rimedon por Aino, municipoj en Hokkajdo decidis utiligi teron kaj provizaĵon de aina kulturo kaj religio, rezulte estaas ebleco utiligi ainajn agadojn nur por vigligi japanajn municipojn aŭ japanajn turismojn.

Japana registaro konstruas en Shiraoi en Hokkajdo koincidante Olimpiko en Tokio, muzeon kaj parkon Upopoy (aina signifo estas “kune kantas”) -Nacia Kunvivada Simbola Spaco, oni dubas ke ĝi estos tema parko ekspluatante ainan kulturon. Upopoy estas sur vasta tereno kaj havas muzeon, parkon kaj ceremonian konstruaĵon. Tiu ceremonia kaonstruaĵo estas por koncentrigi kraniojn kaj ostojn kiujn diversaj japanaj universitatoj posedas. Iamaj japanaj studistoj ŝtelis plej parton de la kranioj kaj la ostoj de ainaj tomboj por iliaj “Studoj” kaj rezervis la ostojn en siaj universitatoj kiel ekzemplerojn. Lastatempe, etno Aino postulis redoni la kraniojn kaj la ostojn eĉ akuzis la universitatojn, tial la universitatoj parte redonis la kraniojn kaj la ostojn kun nur iom da pardonpeto. La studistoj kaj la Universitato volas iel sorvi problemojn eterne de la ostoj multe da kiuj jam ne estas identifita de kie kaj kiel studisto kolektis. La rolo de la ceremonia konstruaĵo estas la rezluto de politiko sorvi la problemon petatan de la japanaj studistoj, la japanaj universitatoj kaj japana registaro, Fina “Solvo” de ŝtelitaj ostoj de etno Aino.

En 1970-aj jaroj, ĝenerale multaj hokkajdanoj inkluzive de amaskomunikiloj de Hokkajdo pensis etnon Aino kaj ainan lingvon kiel pereigintajn etnon kaj lingvon. Sed nuntempe kial nova situacio kiel la reviviĝa movado de etno Aino disvastiĝas, tial unue etno Aino plilaŭtigas sian voĉon transirante malfacilaĵojn, due ne malmultaj japanoj intencas solidariĝi kun etno Aino. Kaj pro la premoj internaciaj kaj enlandaj, ankoraŭ ne sufiĉe tamen japana registaro kaj gubernio Hokkajdo intencas

trakti plisevere la etnan aferon por regado de Hokkajdo.

Okaze de tiu situacio, ofte inter popoloj aperas la demando kiu estas vere ainano. Ke pura ainano ("Pursanga aino estas vere ainano." Troviĝas sugesto inter 0 kaj kelkcent.) jam ne ekzistas, estas laŭ tiu deziro de japana flanko ke jam ne ekzistas problemo pri Aino. Tio estas antaŭmoderna rasismo kiu komprenas etnan aferon kiel pursangismo. Alie aina aktivistino Asiri Rera en Nibutani, Hokkajdo insistas ke japanoj kaj ainoj ambaŭ estas same ainoj, ĉar ambaŭ popolo estas idoj de tre antikva raso Jomon kiu vivis sur japaninsularo de antaŭ 16mil jaroj ĝis antaŭ 3mil jaroj. Sed neniu ainano escepte ŝi ŝajnas akcepti ŝian insiston. Internacia kriterio pri etoneco estas aparteno laŭ etna identeco de individuo. En Japanio politike kaj movade adekvata kriterio estas laŭ reguloj de membra kvalifiko de Aina Asocio en Hokkajdo. Regula membreco estas grupe aina komunumo, individue ido de ainano, edzo aŭ edzino de ainano kaj gubernita homo en aina familio. Ĉu iu estas ainano aŭ ne ainano, estas memklara en aina komunumo, tamen okaze de ainano kiu ne apartenas al aina komunumo ĉu ekzistas aina nomo en malnova familia registro, estas kriterio de iuj ainaj movadoj.

Aparte de diskutoj pri ainaneco, diversaj agadoj aperas. Ekde 1987 komerca radiostacio elsendas kurson de aina lingvo 15 minutojn unufoje en ĉiu semajno, en 1997 fondita tute ainlingva gazeto Ainu Taimuzu estas eldonita ĉiu sezone. Nun troviĝas kursoj de aina lingvo en la universitatoj ŝtata Hokkajdo, Sapporo, Sapporo Gakuin, Hokkai-Gakuen, Tomakomai Komazawa, ŝtata Chiba, Waseda, ŝtata Tokia Universitato Fremdaj Studoj k.t.p. Ankaŭ tiuj kursoj naskas junajn ainajn elitojn pri etnaj kulturoj. Alie tre multaj ainaj junuloj vivas memsente kiel ainano kvankam ili ne posedas ainajn kulturnon kaj lingvon. Kaj ili sentas ŝuldon pri senaineco. Ĉi tiu junaj ainanoj kiu perdas kunigilon kun propra aina kulturo, povos movadi etne, kiam politika movado de etno Aino aperos refoje antaŭ la popolo de

Aino. Ankoraŭfoje etno Aino revenu al spirito de 1984 kaj starigu novajn politikojn de etno Aino pri kulturo, ekonomio kaj politiko. Tiel ainaj elitoj pri etnaj kulturoj kaj amaso da popolo de Aino kune povos batali kaj naskos novan etnan movadon en kiu multaj japanoj volviĝos. Ainaj esperantistoj kaj ainaj subtenantoj por Esperanto ankaŭ povos partopreni en la grandaj ondoj popolaj.

Subtena Centro por Fremda Loĝanto en Hokkajdo

TEL 011-200-9595 support@hiecc.or.jp

malfermita de lundo ĝis vendredo 09:00-17:00

fermitaj de 12:00-13:00 en semajnaj tagoj

kaj en sabato, dimanĉo kaj publikaj feriaj tagoj

Vi povas peti konsilon pri diversaj aferoj nome japana vizo, laboro, inposto, pensio, infano, lernejo, kataklismo, loĝejo, geedziĝo, eksgedziĝo kaj hejmaj aferoj.

per la facila japana

www.hiecc.or.jp/soudan/

per la vjetnama

www.hiecc.or.jp/soudan/vn/

per la angla

www.hiecc.or.jp/soudan/en/

per la rusa

www.hiecc.or.jp/soudan/ru/

per la ĉina(simpla litero)

www.hiecc.or.jp/soudan/cn/

per la indonezia

www.hiecc.or.jp/soudan/id

per la ĉina(malsimpra litero)

www.hiecc.or.jp/soudan/tw/

per la taja

www.hiecc.or.jp/soudan/th/

per la korea

www.hiecc.or.jp/soudan/kr/

per la nepala

www.hiecc.or.jp/soudan/np/

per la tagaloga

www.hiecc.or.jp/soudan/ph/

per la mjanmara

www.hiecc.or.jp/soudan/mm

Protokolo de la 5-a Komitato Kunsido de HEL/Kasjaro 2020
2020 年度 第 5 回委員会 議事録

2020/05/10(日)

❖組織

37 名で変化なし。

❖財政

活動していないため変化なし。

❖広報

HP 合計 594349 人 +519(前回の委員会が 1 月だったので 4 ヶ月間での推移) (横山)

❖M/マガジン

行事がないため発行せず。

❖情報・宣伝

特になし

❖教育・研究

特になし

❖機関誌

電子版兼原稿を作成。紙版は印刷施設が使用できるようになった際に発行予定。今回は必要部数は 70 部だったので、今回も同程度を想定。印刷についてはエルプラか宮沢さんの印刷機が使えるようになったら三密を避けて業務出来るのではないかと。

紙版が出せない間は2ヶ月に1回ほどSES通信のような手紙形式でお知らせをしてはどうか。内容は、1:新型コロナの影響で会の活動が停滞せざるを得ない状況であることのお知らせ。2:それに伴い機関誌の発行も不定期になっている旨のお知らせ。3:skype会議、メール・FAXで連絡の取り合いが可能であることのお知らせ。

電子会員会費について。電子会員 2500 円、紙媒体 3000 円とし、総会で報告して新しい規約とする。

❖年間計画

初夏合宿 計画が立てにくいので中止の方向で検討。

北海道大会 北海道大会も中止の方向で検討。総会も延期の方向で検討。対面での会議が難しいことが想定されるため、人事に関しては提案がある人は秋までに出してもらって委員会の中でメール・FAXで討論して決定する。

❖社会活動

特になし

❖次回委員会

7月5日にskype会議を実施し議事録を作成し、出席できなかった委員会に対してML, FAX, 電話等で意見調整をして、委員会としての議事録を作成する。

※委員の都合により開催予定日が7月19日に変更されました。

Saluton. Mi estas FUJITA Saeko. Kaj 21 jaraĝa studentino.

Mi lernas Esperanton de lastjara septembro. Mi partoprenis en Korea Esperanto-kongreso en oktobro. Mi devis kontroli ĉiun vorton per mia vortaro tial la komunikado bezonis multe da tempo. Sed, ĉiu esperantisto estis afabla en la kongreso. Kaj ili ege helpis min.



Mi volas lerni nian lingvon pli diligente por lerta konversacio. Mi atendas vian helpon.

初めまして。藤田冴子といいます。21才の学生です。

昨年の9月頃からエスペラントを学んでいます。10月に行われた韓国エスペラント大会に参加させていただきました。韓国では、単語を調べながら会話をしたり、非常に遅いコミュニケーションでしたが、エスペランチストの皆さんがとても優しくて助けられました。

もっと会話が上手になるように、これから勉強していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

[編集後記 / Redaktanto parolas.....]

*うろ覚えで描いた Paleozoiko(古生代)の生き物です。

うろ覚えで描いたほうが ĉarma な気がします。そのうち、イラスト入りの Esp 記事を書けたらいいなあ。(立木)



北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000 円、青年会員(26歳未満) 1500円、

購読会員 2000円、家族会員、失業者など割引 1000円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

*Redaktas la Organa Fako de HEL

*編集:連盟機関誌担当

ĉe ĉihaja TAĈIKI

立木ちはや

Retadreso: belaj.akaroj@gmail.com

*Sekretario: Juima KAVATANI

*事務局:川谷維摩

N-ro 100, Simin-Katudô-Sapôto-Sentâ

060-0808 札幌市北区北8条

Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3,

西3丁目 札幌エルプラザ

Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio

市民活動サポートセンター

TEL: 011-717-4189(Mijazaŭa 宮沢)

レターケース100

Retadreso: s20193070@eis.hokudai.ac.jp (Kavatani 川谷)

*TTT-ejo: <http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/index/index-j.htm>

*Poŝtĝirkonto(郵便振替): 02700-6-17075